

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	第2回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開催日時	令和4年10月28日（金）14時00分～16時00分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 401・402・403 会議室 自宅等（WEB参加）	
議長（委員長・会長） 氏 名	林 昌彦	
委員 氏 名	（出席者） 林 昌彦、山田 寛、谷笹摩弥、 久野洋貴、岡本一也、村上晃宏、 西川彩児、西山大作、坂本幸子、 若林孝典、中林久美子	（欠席者） 山國和志
事務局 氏 名	市長公室：水口公室長、谷本次長 市長公室地域創生課：西嶋課長、谷本副課長、柳川係長、清水係長、 白畑主査、田渕主事、植田主事 市長公室秘書政策課：西川課長、上月係長	
傍聴人数	2名	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題） ・ あいさつ ・ 協議事項 (1) 宍粟市DX推進方針について【資料①-1】、【資料①-2】 (2) 宍粟市木育推進方針について【資料②-1】、【資料②-2】 (3) 宍粟市風景ビジョンについて【資料③-1】、【資料③-2】 ・ その他	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認	（委員長等） _____ 委員長 林 昌彦	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>■開会</p> <p>■あいさつ</p> <p>本日はご多用のところお集まりいただき、ありがとうございます。本日は前回10月7日に引き続きの会議ということで、およそ2時間の会議になりますが、集中的な議論についてよろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>■協議事項（進行：委員長）</p> <p>前回の委員会の時にJターンに関する質問がありまして、その回答が保留されておりますので、最初の協議事項に入る前に事務局から説明をいただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>Jターンについて回答をさせていただきます。まず、Jターンというのは、生まれ育った土地から、進学や就職などのきっかけで都会へ移住した後、生まれ育った土地に近い近隣都市に移住することとなっております。宍粟市のJターンについての考え方ですが、Iターンと同様に宍粟市出身でない方が最終的に宍粟市に移住していただくことと考えております。Jターンに特化した取組というものはありませんが、Uターン、Iターンを含めた移住・定住の支援策がありますので、一部ではございますが、紹介をさせていただきます。</p> <p>宍粟市では、市内で住宅を取得されたり、空き家を改修されたりする場合に助成を受けることができます。この助成を受けられた方にアンケートを取っているのですが、この支援が宍粟市で家を建てるきっかけとなったと回答された方が4割近くありましたので、一定移住・定住に効果があったと考えられます。また、子どもの医療費助成がありますが、他市町では中学生までを助成していることが多いのですが、宍粟市では高校生までの助成を行っております。その他にも、遠距離通勤・通学される方に定期券購入の費用を一部助成する支援ですとか、誰でも利用できる無料の職業紹介所のわくわ〜くステーションで、市内及び近隣市町エリアにある事業所とマッチングを行ったり、就活サポートを行ったりしております。他にも新規就農者への支援、空き家バンク、起業家支援などがありますが、このような取組からU J Iターンの増加につなげ、住みやすいまちづくりを推進してまいります。</p>
担当課	<p>・宍粟市DX推進方針について (資料①-1、資料①-2について説明)</p>

発言者	議題・発言内容
委員	ふれあい喫茶の開催時にスマートフォンの基本操作等に関する講習会を同時開催したり、講習会のチラシを配布したりするのはいかがでしょうか。
担当課	市としても希望される方に講座に来ていただくという手法もあるのですが、例えば、職員の出前講座などで職員が出向かせていただいております。
委員	<p>D Xの推進は、行政機関と民間機関が最重要課題として取り組んでいくべきものであると考えております。全体のD X推進体制について、既存のデジタル技術の活用でとどまるのではなく、D Xの「X（トランスフォーメーション）」部分である「X（変革）」からの働きかけが重要で、こういう改革をしたいから、新たなデジタル技術を開発できないかなど、「X」から「D（デジタル）」への考え方が重要ではないでしょうか。</p> <p>行政内部にデジタルについて専門知識を有する職員がどれだけおられるかも大切であり、「X」からの要求に答えられるだけの人材がいるのか、デジタルの専門知識を有する職員確保のための人材育成や外部人材の活用など、どのように課題として捉えているのでしょうか。また、宍粟市D X推進方針の9ページにある全体推進体制の中で、専門的な知識を有している職員はどこに該当するのでしょうか。</p>
委員長	時間の都合もありますので、いくつかのご意見をいただいた後に、まとめて担当課より回答いただきたいと思います。
委員	市内には民家があっても携帯電話の電波が入らない地域があり、電波が通っていない地域があると、デジタルデバイスとして、そこに住んでおられる方は取り残されてしまう可能性が高いと思います。豪雨災害があった地域では当時は電波が入っておらず、災害後から整備がされた地域住民から伺ったので、市として電波が入らない地域の把握はされているのでしょうか。また、電波が入るように整備されるのは携帯キャリアですので、行政として関わる事ができるのか教えてください。
委員	平成30年の豪雨災害の際や阪神淡路大震災の際にも電気が届かないという課題がありました。電気・電源がなければ、D Xというものは動きにくいのではないかと感じていますので、D Xと電気・電源の確保を同時に進めていただきたいと思います。また、阪神淡路大震災の際にはキャッシュしか使えなくなり、金融機関からお金をおろすことができない状況で、顧客と金融機関の間での柔軟な対応があったと聞きます。災害で電気・電源がなく、デジタルが使えなくなった際の課題に対して、市の対策はあるの

発言者	議題・発言内容
	<p>でしょうか。</p>
委員長	<p>今までの意見に対して、担当課より回答をお願いします。</p>
担当課	<p>人材育成については、宍粟市DX推進方針の9ページにある全体推進体制は、市の内部体制のことを示しているため、外部人材についての内容は含んでいない体制となっており、こちらにはお示ししていませんが、従前から外部のICTアドバイザーに委託し、市のICT推進に対するアドバイスや職員研修などを担っていただいております。リーダー層から一般の職員にいたるまで、これからDXの推進に向けて同じ認識を持っていかなければならない中で、今年度は、管理職層、情報セキュリティのリーダー層、一般層に向けた職員研修をICTアドバイザーに行っていただき、来年度からも引き続き研修を積み重ねていくことで、意識と技術などを上げていく計画としております。</p> <p>外部人材の登用については、近隣市町では、国の登録している外部人材のバンクから姫路市では3名、たつの市では1名を登用されていると把握しています。宍粟市においては、まずは現在委託しているICTアドバイザーと連携して、職員の知識を高めることができると考えています。総務省が外部人材の登用の実態をまとめたものを公表されておりますが、行政の組織や仕事の進め方が理解されなければ、DXが進みにくいという実態がかなりの割合で報告されております。外部人材の登用については、様々な側面でメリット・デメリットがありますので、今後も引き続き整理していきたいと考えております。</p> <p>組織の中でこういった層が中心となってDXを推進していくかということですが、宍粟市DX推進方針の9ページの全体推進体制における企画立案のリーダー層の次長級と、次長級を支えている各課担当職員が情報セキュリティ推進委員となっており、その委員が中心となって進めていくという推進体制で考えております。</p> <p>市内の電波が入らない地域については市で把握をしておるところですが、キャリアがそういった地域に進出していただけるかを確認する中で、一定の条件がございまして、なかなか条件が揃わないところが、現在電波不通の地域となっております。</p>
担当課	<p>電波が届かない地域というのは、宍粟市も含め過疎の地域では非常に大きな課題です。キャリアの進出の条件から、どうしても過疎の地域は後になってしまいます。同じ過疎地域が一体となって国へ強く要望を行っているところですが、市としてはその要望の進捗を注意深く確認している状況です。</p>

発言者	議題・発言内容
	<p>停電時の対応についてですが、宍粟市では、本庁と各市民局については、停電時などでも対応できるように、自家発電を設置しており、6～12時間の間は稼働し、その間に電気を復旧させるような形で対策をとっております。避難所については、災害用無線を導入しておりますが、停電したら動かなくなるため、避難所に持ち運びのバッテリーを持って行き、家族への連絡などで使えるようにしていくなど、一つずつ整理をしている段階です。</p> <p>特に電波が届かない地域は、市内にたくさん点在していますが、市内にある株式会社オーエスグループと包括連携協定を結んでおりまして、独自の電波であるローカル電波の開発に着手されています。例でいいますと、本庁舎1階西側に大きなビジョンがあり、静止画が映っています。最上山公園から南を向いて撮影した静止画で、駐車場にある電源ポールに静止画の電波が届いてきて、その電波が1階のビジョンに映るようになっています。キャリアではなく、独自の電波をはわしていくもので、停電や電波が届かない場所でも電柱を建てることによって電波を繋いでいく実証実験を行っておられ、これは過疎地域では大変有効になるのではないかと考えています。開発が進めば、独自の電波を使って、例えば見守りに活用したり、警報を鳴らしたり、災害の時に雨量を伝えたり、そういったものにも活用できるかなと考えており、これから株式会社オーエスと一緒に研究を進めていきたいと考えております。</p>
委員	<p>デジタルは手段であって、その手段を使ってどうしていくかが重要で、「X（トランスフォーメーション）」のビジョンが見えづらい。宍粟市のDXの現状として、入り口にある状況なのでしょうか。</p>
担当課	<p>おっしゃる通り、デジタルは手段であって、デジタルをどう上手く活用して市民サービスとして提供していくかが重要であると考えます。どのような社会を創り上げていくのか、各分野において課題がありますので、どの分野から着手して、デジタルという手法を使って、市民の皆様が豊かに暮らしていただけるかを整理させていただきたいと思っております。現状としては、他市町も取り組んでいるマイナンバーカードを使った行政手続の推進について進めている状況です。</p>
委員長	<p>市民の皆様の意見をどうくみ上げていって、将来の「X」のビジョンを作っていくのか、真剣に考えていただきたいと思います。</p>
委員	<p>暮らしと行政のDX部分の取組ですが、スマホですべて対応していくということでしょうか。高齢者はスマホの画面が小さすぎて見えづらく、パソコンの画面でない見えづらく現状もあります。</p>

発言者	議題・発言内容
担当課	<p>入口としては、スマートフォンという身近なものから使っていただくことで、色んなことができるということを知っていただきたいと考えています。地域のDXというのは、スマートフォンの使用だけではなく、例えば、ドローンで荷物を届けるなど、生活が豊かになるような取組のことと全国的に捉えています。どういったものが宍粟市に合っているかは、これから整理をさせていただこうと思います。</p> <p>パソコンの画面の方が見やすいなど、こういった意見をお聴きできたので、スマホがいいのか、もう少し画面が大きいタブレットがいいのかなど、道具についても、皆様に使っていただけものということを念頭に置きながら、皆様の意見を聴きながら、DXの取組を進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>DXにおける取組については、市民のみが努力して進めていくのではなく、行政が市民に寄り添うようお願いします。</p>
担当課	<p>人のあたたかみのあるサービスとデジタル技術をセットにしながら、市民の皆様の生活が良くなるよう、寄り添って行政サービスを考えていきます。</p>
担当課	<p>・宍粟市木育推進方針について (資料②-1、資料②-2について説明)</p>
委員	<p>まず、林業関係等の事業者の方が木育に興味を持ち、講習会等を行い、理解・知識向上をめざすべきではないでしょうか。</p>
担当課	<p>木育推進方針の「環境を守る」というところで、林業事業者や林業の担い手の方の協力が重要でありますので、一緒に木育に取り組んでいただきながら進めていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>いくつかのご意見をいただいた後に、まとめて担当課より回答いただきたいと思います。</p>
委員	<p>木育についての取組はとても良いことだと思います。森林に囲まれて生活していますので、子どもたちに森林の良さ、触れ合う機会を設けていただくのはとても良いことだと思います。</p> <p>波賀町域における市民協働センター整備（生活圏の拠点づくり）の中で施設を1か所に集める方向となっていますが、木造ですばらしい建物であるメイプル福祉センターについては有効活用をしてもらいたいと考えてい</p>

発言者	議題・発言内容
委員	<p>ます。</p> <p>令和3年度にウッドショックで木材の値段が上がりましたが、市への影響はあったのですか。</p>
委員	<p>東京おもちゃ美術館の木育キャラバンで、徳島県に行ってワークショップを担当したのですが、そのイベントの広報は行政の広報だけだそうです。2日間で約1,500人来場者があったと言っておられました。初めて木育キャラバンを行うところでは人が集まらないということを知っています。信州にも行きましたが、信州はクラフトが盛んでした。木育を進めるには行政の本気度が問われ、早くて数年かかると思われます。民間が主体となって進めると浸透は早いのですが、継続的な運営面での課題があります。宍粟市においては、木育について時間がかかっても質の高い内容のものを行っていただきたいと思います。経済優先で木育が語られることが多いと感じており、利益が先行してしまうと長続きしないと思います。</p>
委員長	<p>担当課より、まとめて回答をお願いします。</p>
担当課	<p>波賀町には、木造の庁舎やメイプル福祉センター、教育研修所が入っている旧野原小学校など、木造の素晴らしい建物が多くあります。これから先、少子高齢化が進む中で、全ての建物を残していくことは難しいと思いますが、木造の素晴らしい建物を有効活用する視点を持って、残していくもの、廃止するもの、優先順位をしっかりとつけて考えていきます。</p> <p>ウッドショックについてですが、ウッドショックが起こった要因としましては、一つは、コロナ禍において外材が入ってこないため木材の価格が上がり、それであれば内地材を使えばよいということになりますが、林業の人手不足により、木材の需要に追いついていないところで、内地材を積極的に出せていない状況となっております。現在、木材の価格高騰は落ち着きつつあると聞いております。</p> <p>もう一つの要因としましては、国がゼロカーボンを宣言し、木材がかなりバイオマスチップとして出されています。今までは切り捨てられるような木材や枝葉が山に残されていた状態ですが、こういったものまでバイオマスチップになっており、山に木が残っていない状況です。建築材に使われるような木材まで、バイオマスチップに流れていることで、価格高騰や木材不足になった面もあると考えております。内地材の利用が求められることではございますが、コロナ禍が落ち着くと外材のニーズも出てくるのではないかと捉えています。</p>

発言者	議題・発言内容
担当課	<p>初めて木育ワークショップを行う際は人が集まらない、上手くいかないということがあります。現状としては、一宮市民協働センターと波賀のメイプル福祉センターに木のおもちゃを導入しており、そこの職員に話を聴いてみますと、ロコミなどから遊びに来られる方もありますが、多くは固定の利用者だということでした。</p> <p>木のおもちゃの利用者の幅を広げるために、新たに一宮と波賀にある木のおもちゃを動かして人を集めていこうという取組を考えています。また、木育について経済優先で進められていることが多いということでしたが、宍粟市の木育推進方針では、5つの目標を掲げており、「経済を活性化させる」という部分と「子どもの心を豊かにする」など、経済優先だけではない部分の両輪で進めていこうと考えています。</p>
委員	<p>しそ森林王国観光協会では、国見の森公園において森林学習を進めています。子どもたちが木材に触れる体験や子どもたちが自ら木材で何かを作り上げることが重要であると考えております。小学生の子どもたちが来た時に、木の万年カレンダーや名札を自分で作るなど、持っているおもちゃで遊ぶことだけではなく、自分達で体験して作り上げたものを家に持って帰って飾ったり利用したりという経験が、子どもたちの教育に大切だと考えます。</p>
委員長	<p>木育について、市内で既に色々な活動が行われていることを伺いました。こういった現場の情報を生かしていただきたいと思います。</p>
担当課	<p>・宍粟市風景ビジョンについて (資料③-1、資料③-2について説明)</p>
委員	<p>残したい風景、伝えたい風景についてですが、一つ目が「夕方の最上山からの鐘の音」ということで、たつの市では赤とんぼの歌が流れていますが、山崎では山崎小唄を流したらと思います。二つ目が「揖保川や用水路での水遊びや魚釣り・魚とり」ということで、河川や用水路も多くがコンクリートで固められていますが、少し土手のある安全な水路があればと思います。また、漁協による釣りの規制を子どもについては外してほしいです。海が近ければいいですが、揖保川で子どもが釣りをできないのはかわいそうです。</p> <p>残したい風景として、「里山でのカブト虫、クワガタムシとり」や「蛍の飛ぶ水辺」があげられます。</p> <p>また、風景ビジョン全体を通した今後の展開については、観光で人を呼ぶためには、やはり外国人を視野に入れておかなければならないと思いま</p>

発言者	議題・発言内容
担当課	<p>す。SNSでの英語、他の言語の発信や看板の多言語化が必要です。中国語、韓国語は必須です。</p> <p>リフォームは必要ですが、空き家は外国人観光客、学生等の宿泊施設としてはと考えると。人口が減っても来場者が人口減少の何パーセントでカバーできるのではないかと、仮説を立ててみてはどうでしょうか。</p> <p>残したい風景、伝えたい風景についてですが、地域によっては夕方に歌が流れるところがあり、メロディーを聴くだけで昔のことを思い出すことができ、宍粟市においても今後風景づくりを進めていく上で、心に残るような取組をしていこうと考えています。また、子どもたちにも、自然の中で色々な体験をしていただきたいと思っています。今後は関係主体と協議していきながら、身近な所で自然と触れ合えるような場所が確保できないかと考えています。</p> <p>風景ビジョン全体を通じた今後の展開については、水際対策の緩和、入国規制の緩和により、外国人旅行客の増加が期待される中で、外国人観光客へのおもてなしも重要であると考えております。宍粟市の魅力ある風景を壊すことのないよう、風景に配慮した看板の設置や空き家の有効活用ができればと考えています。また、良好な風景を維持しておもてなしをすることで、観光客のリピーターの増加を図っていかねばならないと考えています。</p>
委員	<p>しろう森林王国観光協会が実施しているフォトコンテストとの違いが分からず、この取組で風景ビジョンの浸透を図れるか疑問が残ります。また、残したい風景として、祭りなどでの担ぎ手がない課題があり、残したい風景である祭り自体が無くなってしまふことを危惧しています。市内にはたくさんの民俗文化財もありますが、その地域にあるものを市民がどこまで知っているのでしょうか。一宮町千町の岩塊流に見学に行ったことがありますが、行く途中の道に大きい岩があり通りづらいところがありました。この対策をしないと人は来ないのではないのでしょうか。</p>
担当課	<p>フォトコンテストとの違いですが、フォトコンテストはいかに良い写真が撮れるかという優劣を競うものであると考えており、風景ビジョンの写真募集については、競うものではなく、一人ひとりが良いと思う風景写真を撮ってコメントをつけて応募していただき、その風景をより多くの人に発信できればと考えております。</p> <p>また、今後より一層魅力ある宍粟市を創っていくために風景ビジョンを策定しておりまして、多くの人に宍粟市に住みたい、良いところだと思っていただけるように風景ビジョンの浸透を推進していきます。</p> <p>市内の民族文化財について市民が知らないのではないかとということにつ</p>

発言者	議題・発言内容
委員	<p>いてですが、風景ビジョンで写真の募集を行い、情報発信を行っていくことで、市内の知らない場所、知らない文化を知ってもらい、誇りに思っただけのように今後情報発信を行っていきます。</p> <p>また、宍粟市にはたくさんの魅力ある場所がありますが、道が整備されておらず行けないということがないように、ハード面についても注意をしながら風景づくりを進めていこうと考えております。交流人口・関係人口を増やしていくことも重要ですが、地域に住む人に対してもあたたかいおもてなしをしていくことで、口コミやSNSでの発信などの効果に期待しながら、風景づくりをしていきたいと考えています。</p> <p>スローガンに「日本一の風景街道」とありますが、なぜ日本一をめざすのか疑問があります。地域に住む方々がその地域の魅力に気づく、再発見していくことを通じて、地域に対する郷土愛や誇りが醸成されるような現在の生活風景を壊すことのないようにしていく、さらに魅力に磨きをかけることが必要であって、そういう地域が魅力的な地域で、観光で訪れられる方も地域の方が誇りをもっているのであれば、自然とその地域を好きになっていくと思います。子どもたちも含めて宍粟市を誇りと思えることをめざし、地域の人に向けてストーリーや目的をしっかりと示した形で風景街道の創造について進めていってほしいと思います。</p>
担当課	<p>「日本一の風景街道」とは、「日本一」になるというのではなく、一人ひとりの考え方、マインドの部分であると考えています。その人にとって日本一である、日本一でなければ日本一になるようにより良い風景を創っていくというような考え方です。</p> <p>風景街道について何をもって日本一とするのかということですが、目に見えて何かをするということではなく、地域での生業ということが一番重要であると考えております。生業というのは、まちづくり、人づくりということになりまして、その方々がその地域で生活してきたことをいかに後世に伝えていけるか、残していけるかが重要であります。地域の方々がそこに住んでいて良かったな、こういったことをみんなに残していきたいなと、心の中で「良かった」と思ってもらえることが「日本一」だと思っております。委員の皆様がおっしゃるとおり、地域の皆様が主役であるというところが、風景ビジョンの肝になるところです。まずは、短期的に風景ビジョンとは何かを伝えていく取組をしていこうということで進めています。</p>
委員	<p>DXも木育も風景ビジョンもそこに住む人たちがどういう思いで暮らしているのか、幸せに暮らしているのかを取材し、宍粟市の良さをPRして</p>

発言者	議題・発言内容
担当課	<p>U J I ターンにつなげていってもらいたいと考えます。</p> <p>住んでいる人の気持ちになって、住んでいる人の声を聴いて、今後、魅力ある風景を発信していこうと考えています。風景ビジョンを創ったきっかけが、「気づき」を与えるということが重要でありまして、良い風景があるのですが、気づかず何気なく生活していますので、改めて今の生活や生業などに気づき、誇りに思い、情報発信することでU J I ターンにつなげていきたいと考えています。</p>
委員	<p>お知らせですが、山崎文化会館の所に石碑があり、ボタンを押すと山崎小唄の音楽が流れます。林業がとても盛んだった頃に、中山晋平さんと野口雨情さんが宍粟市に来られて、実際に市内を回られて唄をかいていただいています。</p> <p>残したい風景について、写真を撮らない人が応募できるよう「文章だけの募集」も考えてはどうでしょうか。</p>
担当課	<p>風景というのは、目に映るものではなく、五感で感じるものが全て風景であると捉えていますので、耳から聴こえるもの、例えば、目で見える文章も風景で、後世に伝えていかなければならないものと捉えていますので、これからどのように残していくかが課題であります。</p> <p>風景ビジョンを長期的に進めていきたいと考えておりますので、委員の皆様には、その都度ご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>「訪れる者に安らぎを、去り行く者に幸せを。」という言葉があり、風景ビジョンも木育も、宍粟のまちの全体を意味するものであるべきと考えます。</p>
副委員長	<p>■閉会あいさつ</p> <p>本日のテーマは、宍粟市らしさをどのように追求していくかという重要なテーマであり、行政におかれても本日の意見を参考にいただき、さまざまな施策に反映していただきたくよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p>